

東日本大震災支援活動報告 ～青年部～

4月23日(土)に、鈴鹿商工会議所青年部(三船正美会長)と同OB会(森 通人副会長)、市内飲食店「(株)エビス・カンパニー・(森下 晃社長)」などのメンバー総勢14名が、東日本大震災の支援活動の為、宮城県気仙沼市にある「気仙沼高校」を訪れました。



気仙沼高校での荷下ろし



気仙沼被災地(気仙沼港付近)



気仙沼高校での炊き出し



今回の気仙沼支援メンバー

現地の気仙沼高校では、現在も約300人が避難生活を送っていますが、指定避難所となっていない為、行政からの支援物資が滞りがちです。また、自宅で被災生活をしている方々にも十分な救援物資が届いていない現状に、気仙沼商議所青年部OB(代表:坂井政行さん)などが自身も被災しながらも、救援物資の収集や、自治会単位での物資の配送にボランティアとして奮闘しています。

気仙沼高校には、この話を聞きつけた全国の商議所青年部から、行政経由ではない沢山の支援物資が、毎日届けられています。鈴鹿商議所青年部も、この活動を援助すべく、「YEG災害対策室」を立上げ、

執行部を中心にメンバー全員が協力し、集めた支援物資(カップ麺・衣料品・雑貨など)の搬送と、地元鈴鹿の産品をたっぷり入れた「豚汁うどん」の炊き出しを目的に、4トントラック(物資)・保冷車(食材)など、計4台で、片道約15時間を掛け被災地入りをしました。

現地では、300食の炊き出しを行うと共に、物資の荷降ろしや荷さばきなどの応援活動も行いました。支援活動後、現地ボランティアリーダーからの情報収集や、被災地域の視察も行い、破壊しつくされた現地の様子に参加したメンバーは、「今回の災害の甚大さを目の当たりにし、津波というものの恐ろしさを肌で

感じた。」「防災対策は言うまでもなく、被災時の行政も含めた支援体制の大切さなどを、地元鈴鹿でも訴え、活かして行きたい。」「現地を見ると、復興までには、まだまだ多くの時間が掛かると思う。」等、それぞれの思いを強く共有しました。

今回の活動をきっかけとして私達青年部は、引き続き「YEG災害対策室」を中心に県内青年部メンバーを始め、商工会議所会員企業、市内の商工業者や市民の皆さんにも協力を呼びかけ、東日本大震災への支援活動を今後も継続的に続けて行きたいと思っておりますので、ご協力宜しくお願い致します。